

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	神戸学院大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	コウベガクインダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ、インターンシップⅡ・Ⅳ、キャリアトレーニングⅡ・Ⅳ
	学部・研究科等名	法学部、経済学部、経営学部、人文学部、現代社会学部
	担当教職員名・役職	今村 拓也(イマムラ タクヤ)キャリアセンター キャリア支援グループ
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	234
	受入企業等数	106
	受入企業等名	株式会社I.Sコンサルティング、尼崎信用金庫、いちよし証券株式会社、榎本薬品株式会社、大阪シティ信用金庫、オムロンパーソナル株式会社、株式会社学情、近畿日産株式会社、株式会社クリムゾンフットボールクラブ、株式会社ケーエスケー、株式会社神戸クルーザー、神戸信用金庫、株式会社神戸ポートピアホテル、株式会社神戸マツダ、生活協同組合コープこうべ、株式会社サカイ引越センター、株式会社山陽マルナカ、株式会社ジャヴァコーポレーション、神姫バス株式会社、新菱冷熱工業株式会社、棚田建材株式会社、但陽信用金庫、トーヨーグループ、株式会社トヨタレンタリース神戸、株式会社日興商会、日新信用金庫、野村證券株式会社、株式会社パナソニック、福岡信用金庫、株式会社阪食、姫路信用金庫、兵庫ダイハツ販売株式会社、平林金属株式会社、フジモトHD株式会社、有限会社ペット・ブラザ、株式会社ホテルニューアワジ、株式会社ホテルプラザ神戸、株式会社マルアイ、株式会社丸善ジュンク堂書店、株式会社マルハチ、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社、株式会社りそな銀行、株式会社ワークアカデミー
	インターンシップの分類	5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ、6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ、7.中小企業でのインターンシップ、8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事、2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	働く現場での営業帯同、顧客対応、グループワーク、座学などを通じ、学生のうちに"働く"を経験する、教育としての就業体験を実施。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している、3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している、5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している、6.当該インターンシップは、選択科目として実施している、8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次～4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	将来の進路実現に向け就業力を高めるため、社会人へ向けた意識をもって、より実践的な就業体験を通して自己理解を深め、実社会の現状を知ることにより実践的作業力の向上を図る。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている、4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ実施期間中に、事務職員がグループワークの発表を見学。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	座学にてインターンシップの目的、ビジネスマナー、職場マナーを学ぶ。グループワークにてインターンシップで何を学ぶのか目標の明確化を行う。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	グループワークにてインターンシップで学習した内容(得たもの、学んだもの)に関するプレゼンテーションを実施し、全体共有を図る。今後の就職活動にどう生かすかの行動計画を立てる。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	一部の企業においてインターンシップ実施期間中に、大学の事務職員がグループワークの発表日に見学を行う。大学等向けの営業を行う企業には、インターンシップ生の同行に対応している。
4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい	

要素④	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの終了後に、インターンシップを通じて感じたこと、気づいたこと、生かしたいことを体験実習レポートにて提出させている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している。2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間～30日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間(うちインターンシップ実施期間3日)、実施期間7日間(うちインターンシップ実施期間5日)、実施期間30日間(うちインターンシップ実施期間28日)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	教育としての就業体験であるインターンシップの定義、趣旨をふまえ、事前研修一日、事後研修一日を大学内で実施し、受入企業には、最低三日間以上の就業体験を依頼している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとつての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学で体験実習評価票を用意し、インターンシップ受入企業先に礼儀・意欲・実習内容について3段階評価(優れているA、普通B、やや劣るC)を依頼している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	「別途提出済み」
問い合わせ先	大学等名	神戸学院大学
	担当部署名	キャリアセンター キャリア支援グループ
	担当者役職名	
	担当者氏名	今村 拓也(イマムラ タクヤ)
	電話番号	078-974-4588
	メールアドレス	career@j.kobegakuin.ac.jp